

クレチン症について

病 名	病気の症状や対応について	難病の団体・HP
クレチン症	<p>◇症状</p> <p>クレチン症（先天性甲状腺機能低下症）とは生まれつき甲状腺の働きが弱い、または無い病気で、国の「小児慢性特定疾患」に登録されている。マスキリーニング（新生児採血）で発見されることが多い。</p> <p>クレチン症の主な症状は、新生児期では体重増加不良・臍ヘルニア・皮膚の乾燥・不活発・長引く黄疸・浮腫（目の回りが腫れぼったくなってしまう）・便秘・舌肥大・低体温などがある。乳児以降は、成長発育障害・脳の成長遅延などがある。</p> <p>◇治療</p> <p>クレチン症と診断された場合は「チラーヂンS」という甲状腺ホルモン剤を投与する。またクレチン症とは一生涯に渡って薬を服用しなければならない人のことを指し途中で薬の服用が止められた場合は「一過性甲状腺機能低下症」という。</p> <p>（クレチン症親の会・患者の会HPより）</p>	<p>クレチン症親の会 ・患者の会「手をつなごう」</p> <p>http://kurechin.nobody.jp/index.html</p>